

「第5回おごおり俳句&ウォーキング」を行いました！

6月4日（土）、梅雨入り宣言が出されたその日、俳人種田山頭火ゆかりの地・小郡をウォーキングしながら、俳句を楽しむ「第5回おごおり俳句&ウォーキング」を開催しました。

テーマは、26、27年度に引き続き「小郡再発見」です。当館文化財専門員が随所で説明をしながら、山口大神宮小郡遥拝所燈籠 → 山口大神宮小郡遥拝所 → 友澤聖志句碑 → 栄山神社 → 古林樵野夫妻句碑 → 其中庵休憩所 → 其中庵を吟行しました。

「青年に聞く幕末史青葉風 民江」

時折小雨の振る中、栄山公園にある句碑や招魂社を巡り、小郡の街を一望し、歴史に思いを馳せました。また、其中庵付近では家族で梅の収穫をしている姿もあり、ゆるやかな時の流れを感じることができました。

「藻の花やよき一刻を佳き人と 賀代子」「新緑や言葉飾らぬ交はりに 伝子」



11：30頃には、全員小郡文化資料館に戻り、昼食もそこそこに作句です。歳時記や国語辞典等を手に、投句締切12：30を目指して真剣な時間が続きました。そしていよいよ、句会。小郡俳句同好会員の方々のご指導をいただきながら、笑い声も飛び出すとても和やかな会となりました。当日は、20名の参加があり、和気あいあいと楽しい一日を過ごすことができました。

「今日一日文学に捧げている 健一」

姫女苑農高跡や碑のぼつり 富清
水の輪の大小雨かあめんぼか 由美子
リーダーは金髪的美女梅落とす 路子
息切らし磴上りきる青かえで 安子
水かくす濃き石菖やもみじ谷 幸子
外宮より遥か青嶺を拝したる 紀子
山頭火の行乞の坂梅まろぶ 良子
座せば句の生まれてきそうな夏の庵 保江

人声に口あく鯉や走り梅雨 延子
梅雨寒やうどん一杯供えたき 和子
廃屋の雑草の隅手鞠花 久美子
梅を挽ぐ少年父の肩に乗り ゆき子
血脈のごとき走り根青嵐 縁
古時計音の整ふ夏座敷 てん子
道祖神もう何度目の六月か 章訓
刈草の香に包まれて栄山 愛



第五回おごおり俳句&ウォーキング（山口市小郡文化資料館）

平成二十八年六月四日（土）

- | | | | |
|--------------------|-----|----------------------|-----|
| 1 万緑の山々背負ふ遥拝所 | 良子 | 26 山頭火の行乞の坂梅まろぶ | 良子 |
| 2 古時計音の整ふ夏座敷 | てん子 | 27 招魂碑の時の重さや苔の花 | 保江 |
| 3 野あざみも街一望ぞ招魂碑 | 延子 | 28 万緑やはるかな神を拝みぬ | 縁 |
| 4 色褪せし袈裟主のごと夏座敷 | 保江 | 29 夏越の無事のみを祈りて遥拝所 | 路子 |
| 5 幕末を今に色おき姫女苑 | てん子 | 30 梅雨空に孤高貫く高燈籠 | 章訓 |
| 6 蜘蛛の巣にまといつかれし聖志の句 | 和子 | 31 万緑に生命息吹くや招魂社 | 章訓 |
| 7 丸文字の山頭火句碑青時雨 | 保江 | 32 墨衣を幽かに揺らす五月闇 | 民江 |
| 8 其中庵まだ青き柿の実待ちし | 由美子 | 33 忠魂碑野あざみふわり見上げしか | 由美子 |
| 9 アマガエル喉を温め出番待つ | 章訓 | 34 万緑やふるさとの街若返り | 和子 |
| 10 夏草やネームプレート歩にゆれる | 伝子 | 35 血脈のごとき走り根青嵐 | 縁 |
| 11 忠魂碑老鶯の声ふり来る | 幸子 | 36 葉ざくらや句友まもりし寝牛の句 | 和子 |
| 12 万緑の溪の大岩染めてをり | 延子 | 37 水の輪の大小雨かあめんぼか | 由美子 |
| 13 南天の花しべかかる忠魂碑 | 幸子 | 38 古林邸住む人もなく梅は実に | 賀代子 |
| 14 聖志碑を掠めて遊ぶ夏燕 | 民江 | 39 句碑石碑尋ねて青嶺遙かなり | 賀代子 |
| 15 石段の高さ不ぞろひ夏あざみ | 路子 | 40 タラノメや我よ我よと雨を浴び | 章訓 |
| 16 名門も葛に埋もれて今昔 | 和子 | 41 座せば句の生まれてきそうな夏の庵 | 保江 |
| 17 草刈の匂ひ流るるもみじ谷 | 延子 | 42 新緑や言葉飾らぬ交はりに | 伝子 |
| 18 梅挽ぎや家族の気持ち一つなり | 民江 | 43 幾年や朽ちし土壁七変化 | てん子 |
| 19 水かくす濃き石菖やもみじ谷 | さち子 | 44 青水無月の木洩れ日受けてみんな美し | 路子 |
| 20 リーダーは金髪的美女梅落とす | 路子 | 45 岩が岩押すもみじ谷七変化 | 良子 |
| 21 雲低く茅流しになびくなり | 幸子 | 46 崩壊へ向かふ旧居や梅太る | 縁 |
| 22 万緑に更衣映ゆ吟行よ | 良子 | 47 S Lの咆哮すいと水鳥 | 縁 |
| 23 あをあをと藤の実のあり風苦し | 縁 | 48 聖志句碑と庵を茂りの繋ぎけり | 良子 |
| 24 危ないと松葉牡丹は角に咲く | 延子 | 49 見てみたき塀の向かふを夏燕 | 賀代子 |
| 25 吟行のでこぼこなりし夏帽子 | てん子 | 50 葉桜や風こちよき其中庵 | 賀代子 |

- 51 名家寂れむかしながらの濃あぢさる 路子 76 無人家の庭先埋める夏の草 愛
- 52 忠魂碑まで九十九折なり夏薊 てん子 77 梅を擁ぐ少年父の肩に乗り ゆき子
- 53 栄山の青葉沈みて川の音 保江 78 手招きをされるがままにサツキかな 民江
- 54 藻の花やよき一刻を佳き人と 賀代子 79 人恋し鯉の寄り来る五月花 ゆき子
- 55 紫陽花の紅我こそはと言つており 由美子 80 坂道は傘を杖にし栄山 久美子
- 56 梅雨寒やうどん一杯供えたき 和子 81 足とめて谷川の橋藻の咲けり 幸子
- 57 人声に口あく鯉や走り梅雨 延子 82 吟行にそつと付き添ふ青葉風 安子
- 58 山近き新緑の彩いろいろに 伝子 83 姫女苑農高跡や碑のぼつり 富清
- 59 産土の色に染まりぬ額の花 縁 84 廃屋の雑草の隅手鞠花 久美子
- 60 道祖神もう何度目の六月か 章訓 85 藤棚は鯉の泳ぎぬ池の中 ゆき子
- 61 みづすましますい山頭火になれぬ 紀子 86 住み捨てし庵に青柿こぼれつぐ 紀子
- 62 息切らし磴上りきる青かえで 安子 87 五月咲く町並続く雲り空 久美子
- 63 梅の実を擁ぐ家族あり其中庵 富清 88 紫陽花に誘はれ上る山の神 安子
- 64 竹樋を奔つてをりぬ山清水 伝子 89 外宮より遙か青嶺を拝したる 紀子
- 65 吟行す其中庵の柿は実には ゆき子 90 裏通り小さき畑の紫蘇濃し 久美子
- 66 庭先の右に左に七変化 安子 91 紫陽花や一戸一戸の佇まひ 伝子
- 67 あぢみ群れ天を仰いで水をのむ 愛 92 雨音に蛙の声も弾みけり 愛
- 68 夏座敷静かに語る吟行かな 安子 93 青年に聞く幕末史青葉風 民江
- 69 紫陽花に塀の上から見下され 富清 94 田水引くSL汽笛響きをり ゆき子
- 70 山頭火の母よの句碑や青時雨 紀子 95 あぢさいの藍は海より濃き色なり 久美子
- 71 夏つばめ行きつ戻りつ空を切る 愛 96 私の小郡心に齎っている 健一
- 72 六月や句友の家をちと覗き 富清 97 私は私私の道ばかり 健一
- 73 藻の花の小さくふるえ風と舞い 由美子 98 刈草の香に包まれて栄山 愛
- 74 神門の夏落葉搔く翁かな 紀子 99 風が吹いて雨が降って小郡見えてくる 健一
- 75 吟行やサツキが庭へ招き入れ 富清 100 今日一日文学に捧げている 健一